

『獄友』公開中

合計155年を獄中で過ごした5人の冤罪被害者の交友を描いたドキュメンタリー映画『獄友』の公開が3月24日、東京・東中野のポレポレ東中野で始まった。上映後、3人の冤罪被害者と金聖雄（きむ・そんうん）監督がトークを繰り広げた。

金監督は、狭山事件の犯人とされ31年7カ月投獄された石川一雄さんを主人公とした『SAYAMA みえない手錠をはずすまで』（2013年公開）と、袴田事件の犯人とされ48年間



上映後、金監督（左端）を司会にトーク。左から石川さん、菅家さん、桜井さん

の獄中生活のうち34年余を死刑囚として独房で過ごした袴田巖さんを取りあげた『袴田巖 夢の間の世の中』（2015年公開）を発表してきた。その延長上で

3氏は無罪確定。石川さんは無実を訴え、第3次再審を請求中。袴田さんは静岡地裁が再審開始と刑の執行停止を決定したものの、検察が特別抗告したため、死刑確定者のままだ。

「刑務所に入って良かった」「楽しかった」と刑務所時代を笑い飛ばしたりする石川さん、桜井さんに対して、菅家さんは警察と検察に撮影を開始し、獄友たちと出会って、何なんだこの人たちはと思った。この人たちは不幸に違いないと思っただが、7年間撮影する中でいろんなことを感じた。ほんとうに素敵な人たちと出会って作ることができた」と主人公たちに感謝した。3人は近況を報告しながら、千葉刑務所時代の話題で盛り上がり、会場も沸いた。

冤罪被害者の交友描く

再審開始の厳しさも

本作品は生まれた。

映画では2人に加え、布川事件で29年間の獄中生活を送った杉山卓男さん（2015年10月死去）と桜井昌司さん、杜撰なDNA鑑定で女兒殺しの犯人とされ、17年6カ月投獄された足利事件の菅家利和さんが登場する。

5人とも殺人犯とされた。だが杉山・桜井・菅谷

に対して憤りを隠さない。

映画の中で言葉を詰まらせるのが獄中で母親の死を知らされたときの場面だ。79歳の石川さんは「無実を勝ち取るまでは、両親の墓参りにはいかない」という強い信念を、今も持ち続けている。

上映後は金監督と石川さん、菅家さん、桜井さんが壇。金監督は「2010年

映画では過酷な取り調べや証拠捏造などが明らかに

される一方、出獄した後の袴田さんや石川さんの再審支援なども描かれている。再審開始の厳しさは想像以上で、司法制度の問題も浮き彫りにされている。

宗教教誨、あるいは教誨師についてのシーンはない。それを考える意味でも、教誨師や保護司などにはぜひ鑑賞いただきたい。（高）